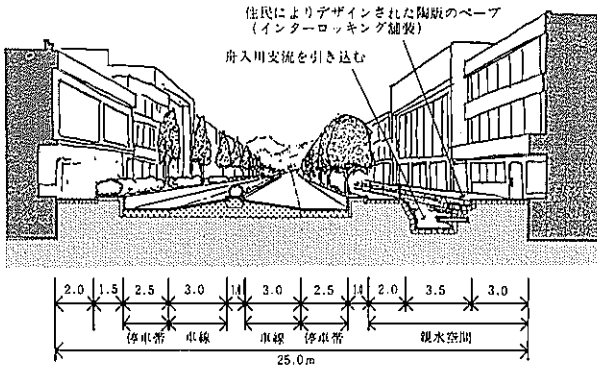


後免町住環境整備の 中間報告まとまる 急がれる駅前線の整備

後免駅前線断面構成イメージ



後免町は、南国市の中心として、また、商業、生活、文化、交通の核として古くから繁栄してきた町です。しかし、現在の後免町の姿はどうでしょうか。

今日の車社会にそぐわない道路及び駐車場、商店街全体としては旧態依然のままの商業環境であり、楽しい買い物行動をすることができていないと言えます。この現状に、後免町の再開発、活性化への要望が官民一体となり高まってきました。

こうしたなかで、三村浩史京都大学教授を委員長に、学者や地元代表者ら十四人から成る「後免町住環境整備推進モデル事業調査委員会」が昨年十月に発足、後免町の再開発に向けての検討が行われています。

そして、第二回委員会が四月十日、市役所で開かれ、これまでの活動が報告されましたので、この報告内容等をお知らせします。

- 中心市街地の特性と課題
- 人口では、市街化

区域全体としては増加傾向にあるものの、中心部では減少傾向にあり、市街地の空洞化が進行するとともに高齢化が進み、衰退現象が起きていると言える。

また、自営業者が多く、居住地と生活基盤が併存しており、住宅改善を行うと同時に商店の改善も必要となってくる。

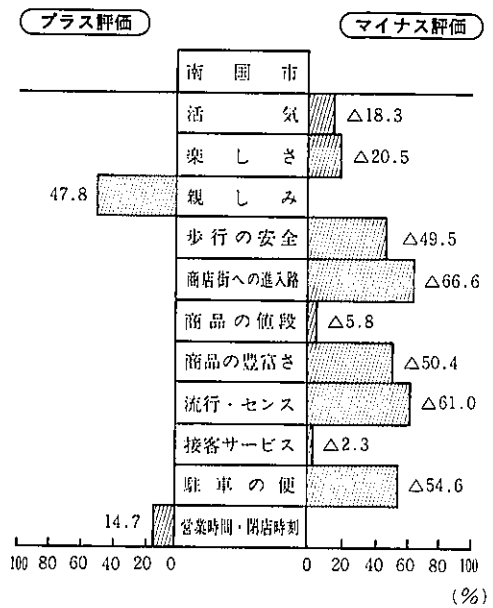
○住環境は、外観による不良住宅、狭小宅地の中心部への集積が目立ち、建築活動が低調。そして、基盤整備されていないことから買い物客にとって必ずしも快適な空間となっていないばかりか危険性すら感じられる。

○商業環境では、個々の店舗では個人的努力により改善がなされていないわけではないが、商店街全体としての回遊性がなく、消費者志向に対応できないため、高知市への買い物流出の最大の原因と考えられる。

○南国らしさから見ると、南国市の持つ資源（歴史性、産業特性等）がまちづくりにじゅうぶんに反映されていない。

○交通上の面では、広域交通ルートから中心部へのアクセス道路が整備されておらず、まちづくりにおいて「南国駅前線」を整備していく必要がある。

商店街に対する消費者の意識



■まちづくり構想

○道路の秩序づくりと宅地利用の増進を図れるように街区を構成することが必要と言え、後免駅前線（幅二五〇）の全線整備を早期に図る。また、その性格は地区交通処理のための幹線道路として、車道のほか歩行者と緑と水を基本とした人間中心のシンボルロードとする。

○地元商業核の機能強化として、既存の南国スーパーの共同化、近代化の動きは重要な要素であり、これをまちづくり構想の中で位置づける。また、都市計画道路の整備に伴って商店街の配置状況を、地元意向を集約しつつ設定していく。

○中心市街地の活性化において、公共公益施設の立地配置は大きな意味を持っている。集客効果、町のにぎわい創出、複合化効果の点から見ると、市民図書館、郷土民俗資料館、展示ホールなどが有効といえる。

○都市景観を高めるために、舟入川の改修、縁道の整備も必要となってくる。具体的には、舟入川の改修にあたっては石積み方式の採用、舟入川の分岐する付近に中の島公園（仮称）を整備する。そして南国駅前線に水路を取り込むなど親水空間として活用する。また縁道のネットワークとして通学、通園路と公共施設などのネットワークの形成を図る。

○中心市街地の活性化において、公共公益施設の立地配置は大きな意味を持っている。集客効果、町のにぎわい創出、複合化効果の点から見ると、市民図書館、郷土民俗資料館、展示ホールなどが有効といえる。